



日本・台湾・中国におけるセルフ・ギフト

消費者の自己概念を理解するための国際比較

一橋大学大学院 博士後期3年 劉安廸(リュウ アンディ)

2013/11/10 第2回マーケティング・コンファレンス@早稲田大学

sadafumiliu@yahoo.co.jp

本発表の目的と意義

- 目的：セルフ・ギフトという「レンズ」を通じて、日・台・中の消費者の自己概念の違いの把握
- 意義：異文化の消費者の「心」に対する理解
 - 消費者が消費するものは人の自己概念の反映（Belk, 1988）
 - 消費者の解釈（生の声）が大事
 - マーケティング戦略の制定に有益

本発表の構成

1. 自己概念とセルフ・ギフト
2. 調査手法
3. 発見事実
4. 結論

1. 自己概念とセルフ・ギフト

自己概念とは

- 自己概念：「私はこういう人間である」と言った我々自分自身に関するイメージと知識の集合（山内・橋本, 2006）



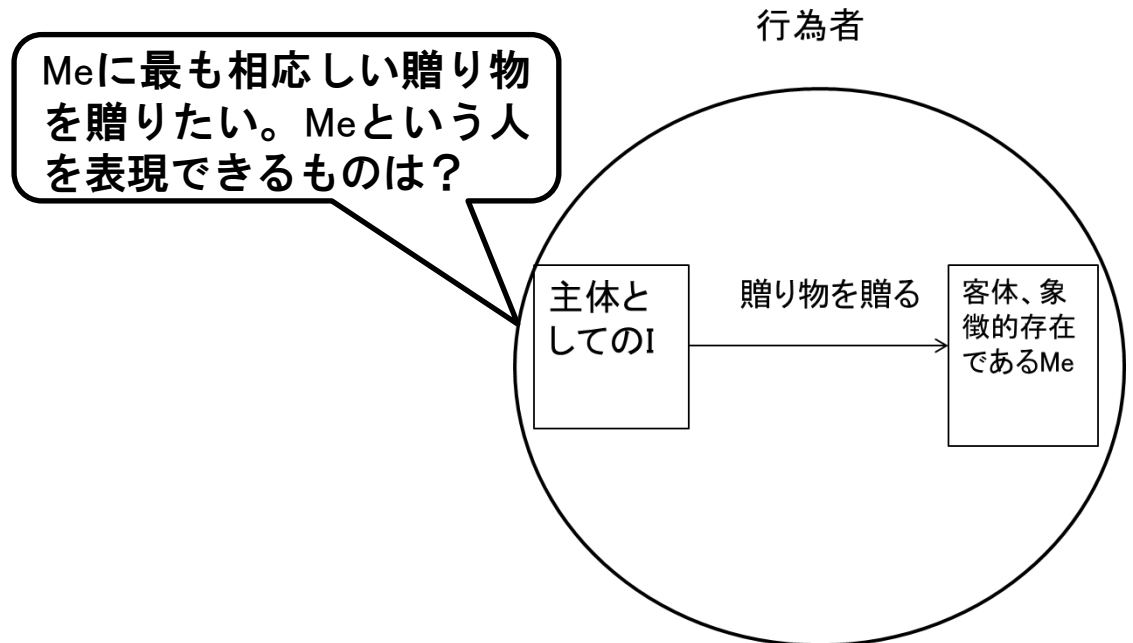
例えば、「私は男（性別）」
「私は台湾人（国籍）」「私
は大学院生（社会的ステータ
ス）」などの描写

セルフ・ギフトとは

- Levy (1982) が提案し、Mick and DeMoss (1990a, 1990b, 1992) が発見した消費者行動
- 消費者が**象徴的自分**に**贈り物**を贈ること
- 日本の「**ご褒美消費**」はその一例 (鈴木, 2013)

自己概念とセルフ・ギフト

- セルフ・ギフトは、如実に消費者の自己概念を表現できる消費者行動
- 主体（I）と客体（Me）の関係：自己の二重性（James, 1892）例えば、「私」は「太郎」を知る。「私（I）」は「私（Me）」を知る。

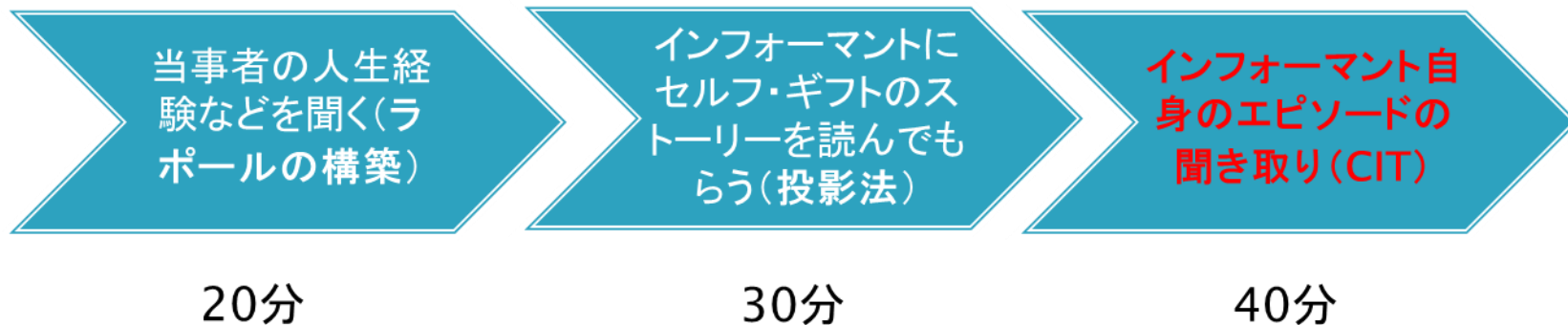


2. 調査手法

調査の詳細

年齢 \ 調査場所	東京(2013.10-2014.2)	台北(2013.2-2013.3)	上海(2013.3-2013.4)
20代	男女各2名	男女各2名	男女各2名
30代	男女各2名	男女各2名	男女各2名
40代	男女各2名	男女各2名	男女各2名
50代	男女各2名	男女各2名	男女各2名
60代	男女各2名	男女各2名	男女各2名
合計	20人	20人	20人

例えば、一時間半のインタビューの場合



3. 発見事実

本セッションの流れ

- 本セッションでは、セルフ・ギフトの「コミュニケーション」「交換」「特別感」という3つのカテゴリーで日・中・台の調査結果を説明

コミュニケーション（1）：アイデンティティを変える

- 消費者はセルフ・ギフトを消費することを通じて、**自分のアイデンティティの変化を表現**（日本・台湾・中国）
- 例：「子供の自分」と「大人の自分」の違いを示すために購入した**大型バイク**（日本、43歳、幼稚園教諭）



- 例：「過去の自分」と「現在の自分」の違いを示すために購入した**美容用加湿器**（中国、42歳、中国語教師）



コミュニケーション（２）：自尊心 情を高める

- Mick and DeMoss(1990b)によれば、セルフ・ギフトは消費者の**自尊心を高め、保護し、癒す**消費者行動(日本と台湾)
- 例: 重要な演奏会の前に、よいパフォーマンスを図るために購入した**シャツ**(日本、28歳、博士後期学生)
- 例: 自分の自尊心を高めるために購入した**ブルガリのダイヤモンド指輪、面子消費**(台湾、56歳、家庭主婦)



交換

- 日本でよく言われる「自分へのご褒美」(鈴木, 2013)。消費者は消費を通じて**自分が仕事のために使った労力と時間を労うこと**(日本、台湾、中国)
- 例: 出産した娘を手伝うためにアメリカに赴き、帰国する前に購入した**ハンドバック**(日本、62歳、家庭主婦)
- 例: 仕事の余暇で参加する**自転車のイベント**、家族と相談して支持を得た(台湾、42歳、法律コンサルタント)
- 例: 両親への仕送りと上海で家を購入するためのお金以外、余分のお金で購入した**テープレコーダー**(中国、32歳、営業)



特別感

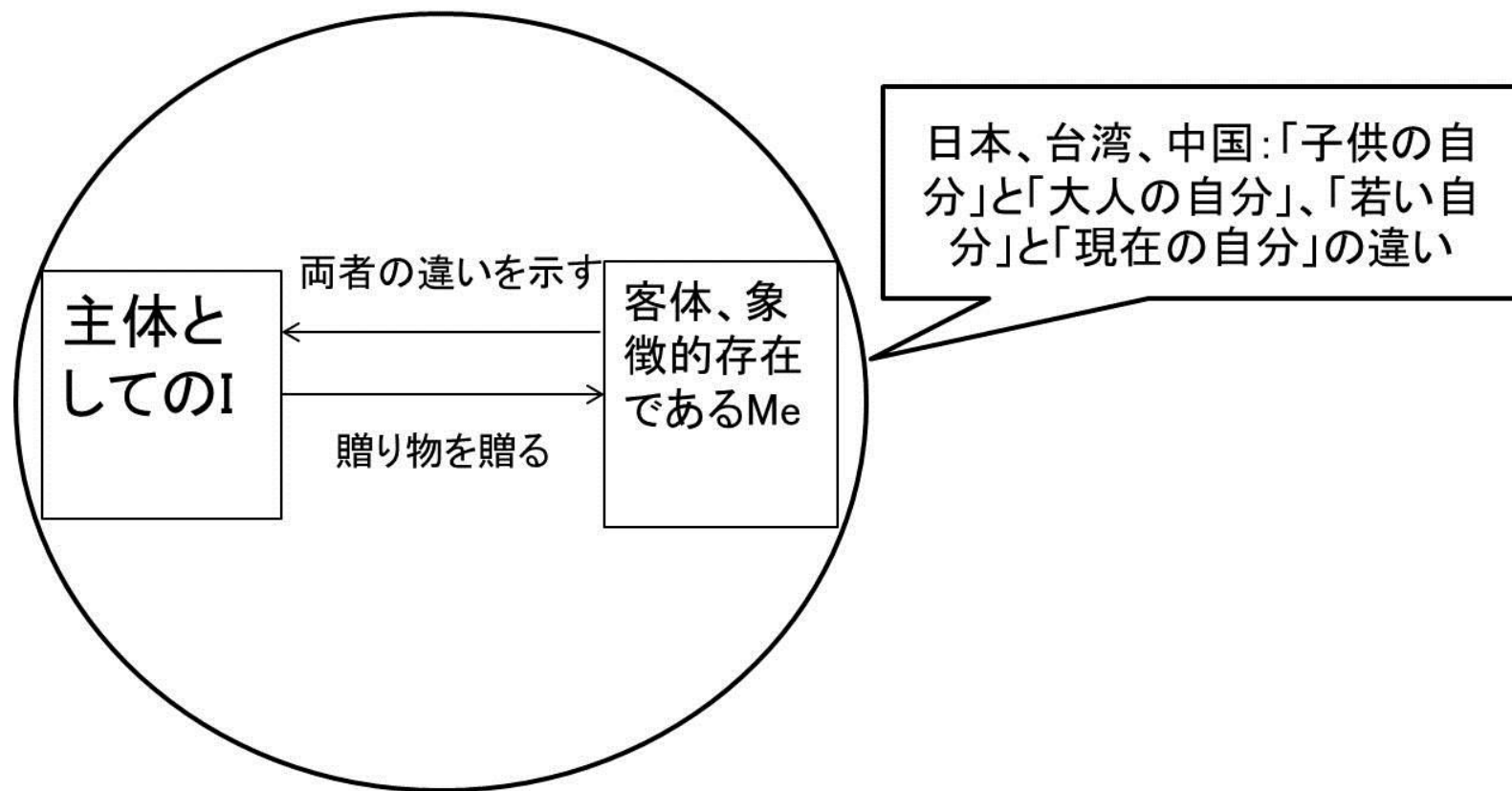
- 特別感とは、消費者がセルフ・ギフトを消費する際に、**強烈な感情と儀式的側面**を持つこと（日本と中国で発見）
- 例えば、理想の自己と現実の自己との違いから生じる**ストレスから逃避するための青森旅行**の経験（日本、41歳、派遣社員）



4. 結論

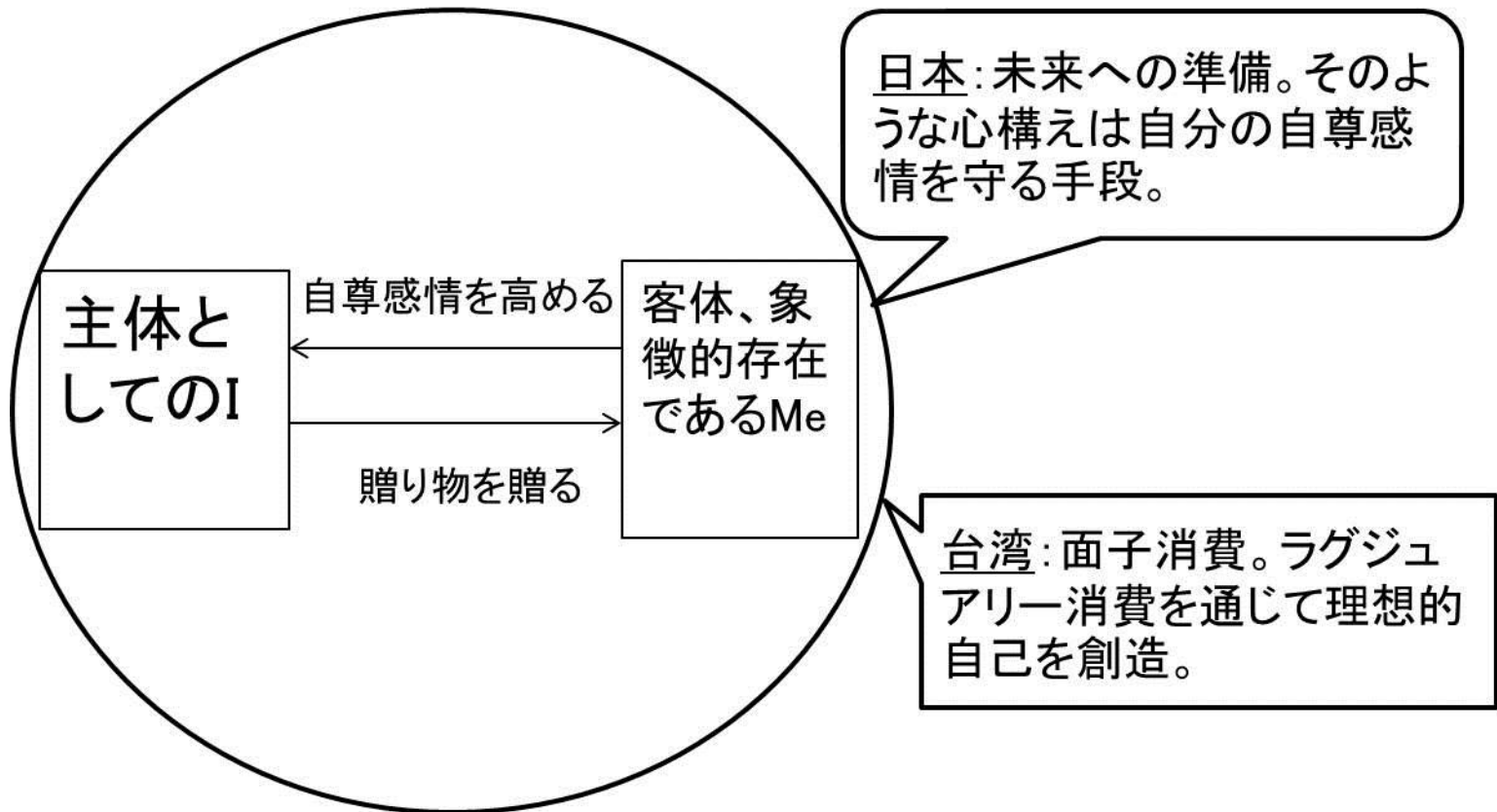
コミュニケーション（1）：アイデンティティを変える

行為者



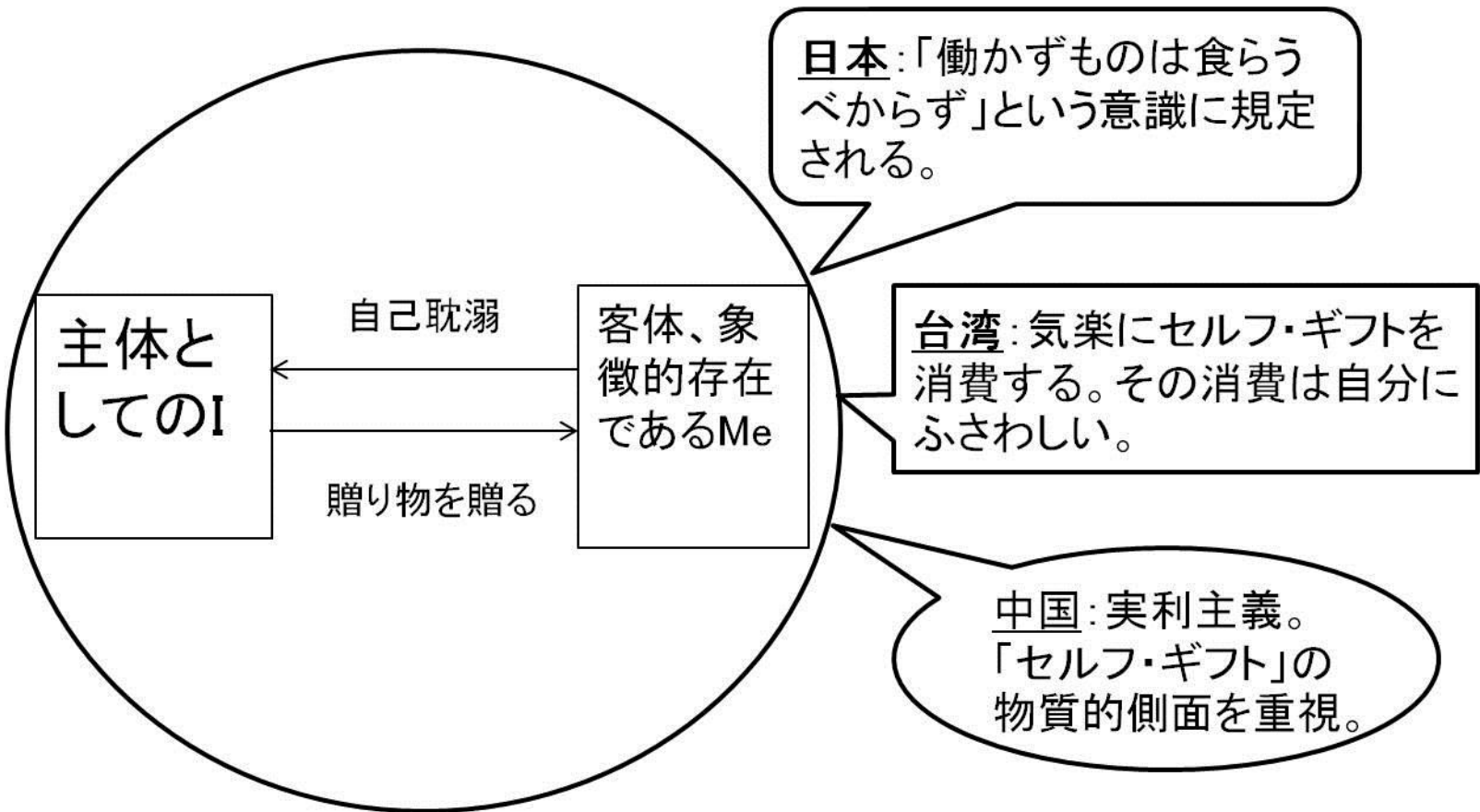
コミュニケーション（２）：自尊感情を高める

行為者



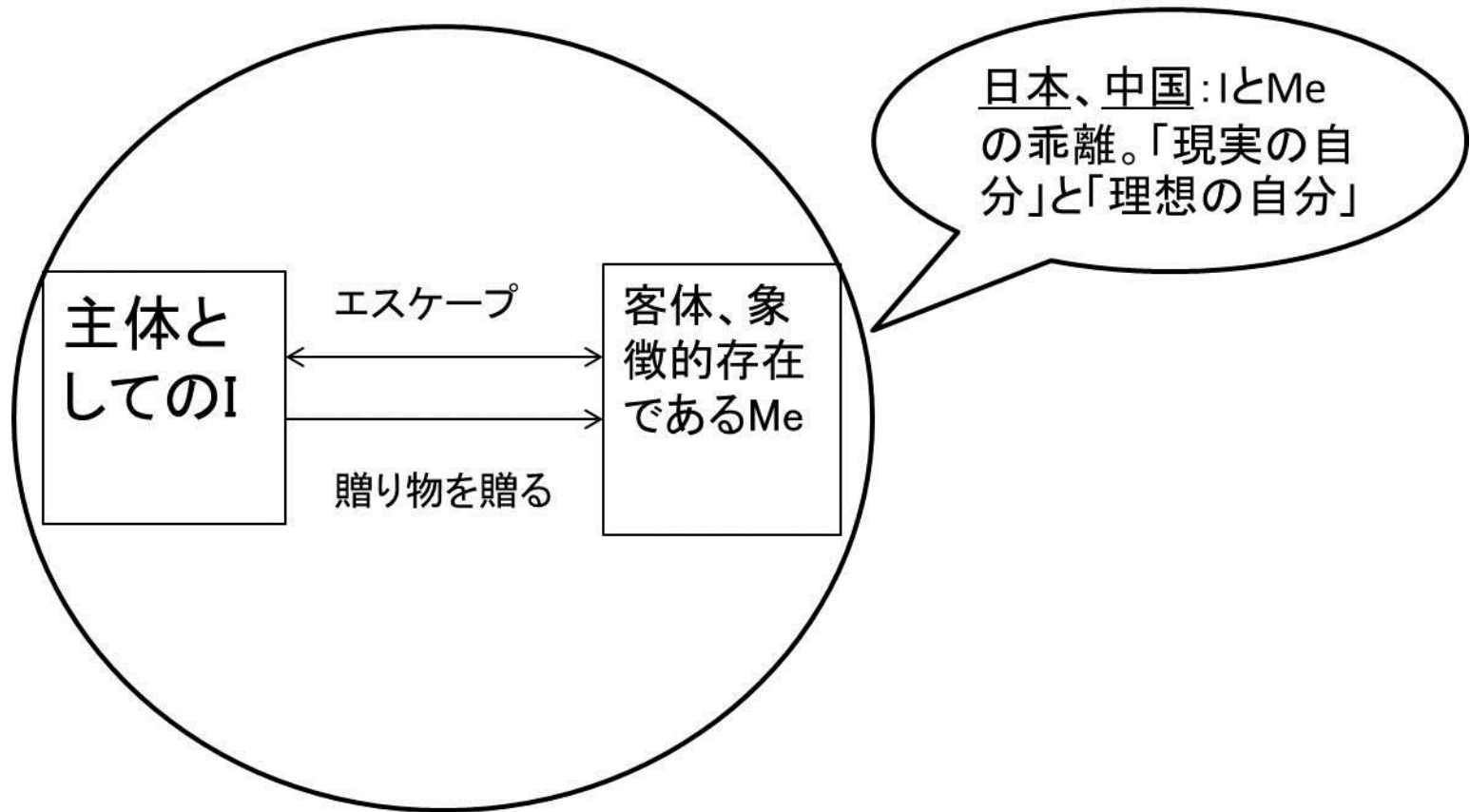
交換

行為者



特別感

行為者



ご清聴ありがとうございました



付録（インフォーマントの発言）

コミュニケーション（１）：アイデンティティを変える

- 例えば、「子供の自分」と「大人の自分」の違いを示すために購入した**大型バイク**（日本、43歳、幼稚園教諭）

スクーターとか、小さいバイクは若者が乗れる。大型は若者が乗れない。大人になった証のようなものですかね。（スクーターについて）自分のプライドが許さないの。大きいのに乗っている自分が小さいのに乗っている自分の姿が許せない。例えば、ダイヤモンドの指輪をしている人がオパールとかにできない。お金がないからといってオパールには妥協しないですよ。プライドですね。

コミュニケーション（1）：アイデンティティを変える

- 例えば、「過去の自分」と「現在の自分」の違いを示すために購入した**美容用加湿器**（中国、42歳、中国語教師）

一番印象深いのは、35歳の誕生日の時に、自分のためにフィリップスの美容用加湿器を買ったことです。あの時高かったわ、何百元もしたと思う。いまじゃ何十元しかないのに！（中略）ああ、時間が経つのは早いね、もう青春は戻ってこないわ。年に一回の特別な日だったから、自分で自分を褒めたかったの。

コミュニケーション（2）：自尊心を高める

- 例えば、重要な演奏会の前に、よいパフォーマンスを図るために購入した**シャツ**（日本、28歳、博士後期学生）

多分、演奏会の一週間前だと思うので、この黒いシャツを買いました。この時に思っていたこととしては、既に1枚を持っているのに、もう1枚を買いたいけど、絶対に買わなければならないものじゃなかった。しかし、この演奏会はわりと、思い出がある演奏会で、指揮者の先生も親しい人、すごく尊敬している人で…わりと小さめのオーケストラです。1,200人ぐらいのホールで…杉並のホールですね。お客さんに音楽を披露することです。ここで、「頑張ろう」ということを自分で自分に約束をして、それでここでシャツを買いました。

コミュニケーション（２）：自尊感情を高める

- 例えば、自分の自尊感情を高めるために購入した**ブルガリのダイヤモンド指輪**（台湾、56歳、家庭主婦）

あの、ブルガリが一番有名なのは、あのヘビでしょう。（中略）うちの妹は、「これを付けて出かけたら、誰だっけ見ればすぐブランドがわかるでしょう？姉ちゃんの今の身分だったら、買ってもいいじゃないか」って言ってくれた。だから、「まあいいわ、自分へのご褒美」って思って買った。

交換

- 例えば、出産した娘を手伝うためにアメリカに赴き、帰国する前に購入した**ハンドバック**（日本、62歳、家庭主婦）

ね、何かがないとですよ。私そんなに今ご褒美貰うようなことしてないから。今はもう仕事もしてないしね、だからそんなご褒美っていう感じで、消費をしたことはこの1年間はないかもしれない。娘の手伝いに行ったけど、娘の手伝いに行って、なんか買ったかな、バッグを買ったかな。娘の出産の手伝いに行って、そう、自分に。娘の出産の手伝いにアメリカに行った時に、ちょっと良いバッグを買ったとか…やっぱり、そのご褒美っていう感覚は、すごい頑張ってる人じゃないですか。だからあんまり頑張らない人は、ご褒美要らないんですよ

交換

- 例えば、仕事の余暇で参加する**自転車イベント**、家族と相談して支持を得た（台湾、42歳、法律コンサルタント）

これは自転車に関するイベントですね。「風シリーズ」というもので「慢騎（slow riding）を呼びかけてるんだ。つまり、10キロ、20キロぐらいの速度で自転車に乗って、主催側が用意したコースをゆっくり回るというものだ。（中略）だから自転車に乗ってあそこに行くと、補給するついでに現地の風俗と文化を見学することができる。ちょっと大変であるが、私はだいたいひとりで参加している。そして、家族の支持を得ているので、私もよくこの自分へのご褒美を楽しんでいる。

交換

- 例えば、両親への仕送りと上海で家を購入するためのお金以外、余った金で購入した**テープレコーダー**（中国、32歳、営業）

当時、家の経済状況は非常に貧しいものでした。両親を養うだけでなく、貯金もしなければならず、それから上海で自分の家を買いたい、こういうことを考えていた。ですので、貯金することは私にとって非常に大きなプレッシャーでした。貯まったお金は旧正月に帰省した時両親に渡すものでした。旧正月の時以外、ほとんど外出しない。ある時、1万元を貯めようとして本当に貯まって、目標が達成できた。普段貯金するのが本当に大変なので、余ったお金で何かを買いたくなった。そういうわけで確か、ソニーのテープレコーダーを買ったなあ。あれですよ。あれなら宿舎でも使えるので。

特別感

- 例えば、理想の自己と現実の自己との違いから生じる**ストレスから逃避するための青森旅行**の経験（日本、42歳、派遣社員）

昔はそうじゃなかったんですけど。会社に来る前は、そうではなかったんですけど、なんか、旅行で、私、曲も作るんですけど、音楽、お琴の曲も作ったりするんですよ。いまはちょっと、ぜんぜん浮かばないね。このルーティンな生活で頭が働かないし、感性もちょっと劣っちゃってダメなんですけど…だから、昔は、旅行というと、自分の感性を高めるためのものなんですけど、もっと広がり、経験をすると、いろいろ、感性が…だけど、今は、だから毎日、こういうルーティンな毎日なっちゃったんで、そこからの脱出とか、そこで溜まった、知らず知らずに溜まったストレスを解消するための手段になっちゃって、自分としてあんまり良くないなと思ってるんですけど。